禅の心

第190号
令和７年　春季号
発行　安住寺
臨済宗南禅寺派
〒873-0002
杵築市大字南杵築379
Tel　0978-62-2680
Fax　0978-62-3980
http://www.anjyuji.net
編集責任　矢野明玄

春季無縁供養説教会

令和七年四月二十二日（火）

〈布教師〉
大分県豊後高田市
臨済宗大徳寺派　円福寺住職
廣見　宗泰師（ひろみ　そうたい）

※本年の無縁供養説教会は一日で行います
布教師様のお説教と合掌会総会も開催されます。
日程をご確認の上お参りください。
卒塔婆供養は一本五百円です。
事前の申し込みにご協力ください。

〔無縁供養・説教会日程〕

- ・8:30～ 受付（卒塔婆・回向袋）
  当日分の卒塔婆を受け付けます
- ・10:00～ 卒塔婆供養 午前の部
- ・11:30～ 合掌会受付
  （お弁当の準備はありません）
- ・12:30～ 合掌会総会
- ・13:15～ 卒塔婆供養 午後の部
- ・14:15～ 説教会 布教師様ご法話
- ・15:30～ 無縁供養施食会
- ・16:00頃 散会

合掌会会員出席者には、施食会の後にお弁当を配ります。出欠をお知らせください。

【総代交代のお知らせ】

総代をお勤めいただいておりました、是久幸雄様、松本文次様が相次いでご逝去されました。総代在任中でありましたので大変残念でなりません。改めてご冥福をお祈りいたします。
また、在任中は安住寺護持のため一方ならぬご尽力をいただき、衷心より感謝申し上げます。
現職の総代様が二名欠員の状況となり、他の総代様とご相談をし、任期途中の残任期間ではありますが、新たにお二人の方に総代をお引き受けいただくことになりました。

＊東大内山　藤原力男様
＊杉山　是久義人様

お二方には四月一日より総代の任をお勤めいただき、皆様には四月二十三日の説教会の際に改めてご紹介させていただきます。

【聖典新調】

故須賀豊子様（円明院浄安玉豊大姉位）より安住寺へ寄贈された遺贈金の一部を仏教聖典の新調に充てました。ご報告致します。

【駐車場舗装工事】

この程、傷んでいました駐車場が杵築建設の施工で綺麗になりました。

【月例座禅会】

4月より午前六時から開始。
基本は第２.４土曜日です。

★4月12.29日
29日は火・昭和の日
★5月10.24日
★6月14.28日
★7月5.19日

【写経会】

★4月24日・木
★5月20日・火
★6月20日・金
★7月23日・水

8月は坐禅会も写経会もお休みです。皆さんのご参加お待ちしております。

【日々之好日】

★一月十七日・大般若祈祷法要
八坂千光寺・和尚様
頭部内出
いただき御祈祷二月
千光寺大般若法要★
五月二日～六日閑栖和尚は御詠歌の研修で京都福知山市へ
★二月十一日・総代役員会並びに代表者会
来年度予算案等について協議
★三月白木龍雲寺の大般若法要
市内寺院二十四日・南禅寺派の巡行事確認
白木会長の春の市内教会長
★三月八日・杵築市観光協会
催人形供養をお勤め
六年目一番多いひな人形が、今までで一番多いひな人形が並びました。少子化のせいかお人形も受け継ぐ方がいないようです。

★三月十七日・開基重公の御命日・木付親方々がお見えになり法要★三月二十七日・合掌会執行部会総会に向けての話し合いをし、有意義なご意見を聞かせていただきました。

六根清浄にして念を継がず

半反ほどの家庭菜園に、この冬は白菜とブロッコリーの苗を仕立てて、五十本ずつ植えておりました。育ちはよくありませんでしたが、そろそろ収穫をと思っていた矢先に、昨日までは茂っていた葉が一夜にして、白菜は芯と根だけに、ブロッコリーは小さな花蕾が残るだけで、葉という葉がヒヨドリに食べつくされ丸裸にされました。
悔しいやら憎いやら！
ヒヨドリたちも餌に事欠き畑に食事に来たのでしょうが、竹箒をもって追っかけてやりたい気持ちでした。

季節も暖かくなり、畑の周りには菜の花が咲き、八重桜も目を楽しませてくれています。間もなく桜も満開となり、野鳥もさえずることでしょう。目、耳、鼻と私たちの五感を楽しませてくれます。
仏教では、私たちの感覚器官を六根（眼・耳・鼻・舌・身・意）と言い、この六根がそれぞれ捉える、外の世界の対象が六境です。

- ・色境（目で見る形や色）
- ・声境（耳で聞く音）
- ・香境（鼻で嗅ぐ匂い）
- ・味境（舌で感じる味）
- ・触境（皮膚で感じる感触）
- ・法境（心で思い浮かべる記憶・思考・概念など）

六境の六つを捉えて認識したものが六識となります。

- ・眼識（目で見たものを認識）
- ・耳識（耳で聞いたものを認識）
- ・鼻識（鼻で嗅いだものを認識）
- ・舌識（舌で味わった認識）
- ・身識（体で触れたものを認識）
- ・意識（心で考え理解する）

その認識・心には、花がきれいだ、鳥のさえずりが楽しいなど、春の風が心地いい、なごむものもあれば、野菜を食べたり、ヒヨドリを憎く思ったりみたり、悲しい思いを何時までも引きづって泣いてみたり悪いものもあります。
六根（感覚器官）が六境（対象）を捉え、それを六識（認識の働き）となり心となるのです。
心を保つことは大変難しいことです。
悪い認識・心は困りものです。仏教では「念を継がず」と教えます。良い念（心）はよいのですが、後悔や不安の念を引きずってしまったり、欲するままに強く求めたり、嫌悪の念が強く心が乱れたりしてはいけません。
たとえ、貪り（むさぼり）瞋（いかり）愚かさ（おろか）の念を起こしても、その念を次の瞬間まで持ち越すのではなく、一念一念を只受け止め次の瞬間には心を切り替える。
「念を継がない」ことが大切です。
禅の公案『無門関』第二十九則に「非風非幡（ひふうひばん）」があります。
動いているのは幡（はた）でも風でもなく、それを見ている人の心だという、心の実体に挑む公案です。
達磨大師を初祖として、その第六番目の祖師、大鑑慧能（だいかんえのう）禅師がおります。
弟子の二人が、刹幡（せっぱん）という寺で説法をする際に掲げる旗が風に吹かれゆれている見て、議論を始めました。一人は「幡が動いている」と言い、もう一人は「イヤ風が動いているのだ」と言って互いに譲りません。

【重要文化財】六祖慧能図
鋤を担ぎ前のめりの姿勢で口を引き結び、鋭い眼差しで一点を見据える表情が見て取れる。賛は無学祖元は（1226～86）無準師範の法を継ぐ中国の高僧。来日して建長寺の住持となり、円覚寺の開山となった。正木美術館HPより転用

その遺り取りを見かねた六祖慧能禅師が「幡が動くのでも、風が動くのでもない。お前さん方の心が動くのだ。」と言い放ちました。それを聞き弟子の二人はハッと身震したというお話です。
沢庵禅師の詩に
「心こそ　心迷わす　心なれ
心に心　心ゆるすな」
とあります。
六根が六境を捉え、それを六識の意識となり心となりますが、「非風非幡」の公案は、幡と風と心が刹那に一体となっただけで、幡が動いた、風が動いたと念を継いでいます。
はいけないことを教えています。
さて、”どっこいしょ”という言葉は山岳修行の僧が行をしながら「六根清浄」と唱えていたものが、変化したと言われています。
春の好時節”どっこいしょ”と庭に腰を下ろし、六根清浄にして念を継がず、心おだやかにお過ごしください。